

令和4年度第1回花巻新渡戸記念館運営協議会会議録

1 開催日時

令和4年10月28日（金）午後1時30分～午後2時40分

2 開催場所

花巻市高松第9地割21番地 花巻新渡戸記念館 事務室

3 出席者

(1) 委員

出席委員 5名

木村清且委員（花巻市文化財保護審議会副会長）、葛岡貞典委員（花巻市史談会事務局長）、多田アツ子委員（矢沢地域振興会）、継枝イク委員（花巻市地域婦人団体協議会事務局）、福盛田弘委員（花巻芸術文化協会副会長）

欠席委員 1名

佐々木豊委員（一般社団法人花巻観光協会専務理事）

(2) 事務局（花巻新渡戸記念館） 4名

嶽間澤館長、佐々木生涯学習課長、姉帯副館長、中島上席主査

4 議事

- (1) 会長及び会長職務代理者の選任
- (2) 令和3年度事業及び利用状況等の報告について
- (3) 令和4年度事業計画について
- (4) 令和5年度事業計画について

5 会議録

（司会（姉帯副館長））

本日は御出席ありがとうございます。開会の前に、会議成立の報告になります。今日の会議には、委員6名中5名、半数以上の方に出席いただいております。花巻新渡戸記念館管理運営規則第9条第2項の規定により、会議が成立することを報告いたします。また、傍聴の希望はございませんでしたので併せて報告いたします。

それでは、ただいまより花巻新渡戸記念館運営協議会を開催いたします。最初に、嶽間澤館長より御挨拶を申し上げます。

（嶽間澤館長）

お集りいただきまして、大変ありがとうございます。館長の嶽間澤といたします。

コロナの影響で久々の運営協議会でございます。委員の任期は2年となりますので、本年、各団体から御推薦いただき、委嘱させていただいた新たな委員でスタートさせていただきます。よろしくお願

いたしました。

さて、NHKの大河ドラマ鎌倉殿の13人に源頼朝が出てくるということで、新渡戸一家の先祖の関わりがございまして絶対に出てくると思って1月からずっと関心を持って見てまいりました。やっと出たと思ったらすぐ消えてしまったんですが、どういう人物かといいますと、13代の千葉常胤、役者は岡本信人。どういう役かっていうと、頼朝が石橋山の戦いで敗れてそして海を渡って家来と共に、今の千葉県、上総や下総、そちらに流れていき、その時の下総の領主が千葉常胤で源頼朝を助けたわけです。新渡戸家13代は千葉常胤で、後の新渡戸氏になるわけです。頼朝の関係で大河ドラマに出てまいりました。

この話をこの前、記念館に来た矢沢中学校1年生に話したら、全然反応がなく、大河ドラマを見ている子が誰もいない。その日の午後、高木団地の集会に呼ばれて団地の住民の方々にお話しする機会があって、ここでは大受けでした。今の子供たちは大河ドラマを見てないんだなと思いました。

できれば、学校関係でも稲造のことを扱ってほしいなと常々思っているんですが、今年、嬉しいことが二つありました。一つは大迫小学校の先生が3年生の子供たちを連れて見学に来ました。ちょうど3年生ということで、9歳になる歳に新渡戸稲造、当時の稲之助もお母さんのもとを離れて、兄と2人で上京したんですが、そのことを今の3年生にお母さんと別れて東京で勉強しに行けるかかと聞くと誰も行けないって答えてました。そのようなことがあって、若い担任の先生に、どうしてここ新渡戸記念館に子供たちを連れていきたいと思ったんですかと聞いたら、盛岡で先人記念館を見学したと。それで新渡戸さんを尊敬していると。自分の受け持った3年生の子供たちにもぜひ新渡戸さんのことを知らせてあげたいとのことでした。こういう先生がいてすごく感動しました。

それからもう一つは、来年の1月に、市内の小学校と中学校の校長会の研修会が生涯学習推進センターで行われます。そこで、花巻と新渡戸氏あるいは新渡戸稲造のことについて話をしてほしいという要請がありました。やっと学校関係に幾らか踏み込むことができます。

今までも一生懸命学校を訪問したりして働きかけてきたのですが、学校に来て話をしてくれと言われていたのが、矢沢中学校と宮野目中学校、それから花巻東高校の3校だけです。

これを機会に校長さんたちに花巻にもこういう施設があるんだということを知っていただきたいと思いますし、それからなぜ呼ばれたのかなと思ったら、校長会の会長をやっている方、それから事務局をやっている方が、前に花巻市教育委員会に指導主事として勤めた方で、行政にいてこういう施設があるんだことを熟知しているのかなと思いました。いずれ、この二つのできごとで学校関係にもう少しPRする機会が出てくるのかなとそう思っているところです。

入館者もこのような状況で伸び悩んでおりますけども、幾らか明るい兆しが出てきたなという思いがあります。本日は限られた時間でございますが、今後の記念館運営につきまして御意見をいただければと思います。それでは、この後、説明をさせていただきますので、御意見よろしくお願ひしたいと思います。

(司会)

次に、佐々木生涯学習課長より御挨拶を申し上げます。

(佐々木課長)

大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。本来ならばこの運営協議会を所管し

ております生涯学習部長の市川のほうから御挨拶申し上げるところですが、別の用務がございましたので、私、この館も担当しております生涯学習課長の佐々木と申します。一言御挨拶を申し上げたいと思います。

日ごろから花巻新渡戸記念館の運営に御支援、御協力を賜りまして、感謝を申し上げます。昨年度は開館30周年ということでしたので、華々しく記念行事を行いたかったのですがコロナという部分で、なかなか思うような行事ができませんでした。講演会は何とか開けております。

今年度は、今月、10月15日に、新渡戸フェスティバルも開催できております。新渡戸十次郎研究家であります奈良哲紀さんをお迎えして、「新渡戸稲造の父 十次郎の魅力」というタイトルの記念講演会、それから地元の神楽、地元の園児さんにも御参加いただいて、3年ぶりに通常に近い形のフェスティバルができたということで参加いただいた方からも大変好評をいただいたというものでした。

先ほど館長も少し、お話ししましたが、今年度は、休館することなく運営ができております。来館者も9月末のところまで集計しますと、令和3年度だと1,700人ぐらいだったんですけども、今年度は、3,700人を超えております。まだまだコロナ前とまではいきませんが、何か国内旅行の需要も少しずつ回復しているということもあるようですので、入館者についても、少しずつ通常に戻りつつあるのかなというふうに思っております。

この協議会では令和3年度の事業報告、それから、令和4年度事業のこれまでの経過報告、それから、令和5年度に予定する事業につきまして、皆様から忌憚のない御意見を賜りたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(司会)

それでは本日の出席者の御紹介いたします。御手元の資料に、花巻新渡戸記念館運営協議会という表題で名簿の資料がありますので掲載順に御紹介いたします。

今回の協議会委員の皆様は、今年の5月から6月にかけて改選の手続を経まして新たにお願ひする皆様です。

(司会が資料を読み上げて委員と事務局を紹介)

(司会)

続きまして次第の4、会長及び会長職務代理者の選任を行います。

会長は、規則第8条第1項の規定により、委員の互選によるとされておりますが、いかが取扱いでしょうか。御意見がありましたらお願いいたします。

(「事務局案」の声あり)

事務局から提案ということでしたので、館長から案をお示しいたいと思います。

(嶽間澤館長)

事務局といたしまして前任期でも会長を務めた木村委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(嶽間澤館長) ありがとうございます。

(司会)

それでは木村様、よろしくお願いいたします。

続いて、会長職務代理者ですが、規則第8条第3項の規定で会長が指名することになっておりますので木村会長から指名をお願いいたします。

(会長)

木村と申します。会長職務代理者には福盛田委員にお願いします。

(司会)

福盛田様、よろしくお願いいたします。

それでは木村会長から御挨拶をお願いいたします。

(会長)

新渡戸記念館の30周年が、昨年、行われたと。ずいぶん長い時が経ち、この建物を設計した者として自分の子供がもう30歳になったような気がしてございます。

20年ぐらい前か御田屋町の菊池捍邸を調べており菊池捍さんと新渡戸稲造の関係が大体わかってきました。後藤新平民政長官から請われて新渡戸が台湾に渡りますが、その時に一緒に行ったのが菊池捍さんになります。新渡戸稲造先生は確か1年か2年で戻られたんですが、菊池捍さんは9年間いて、台湾にサトウキビ工場5か所づくり、当時、外貨獲得の第一の産業でありました。この100年間というか、明治、今年は鉄道ができてから150年って言ってますけど、この間の日本の変化っていうのはすさまじいものがありまして、やはり明治期の新渡戸とか佐藤昌介先生とか、要するに、江戸から明治に変わったときに一番輝いていた先人、その方たちが岩手県、この地域から出たということで改めてびっくりしました。これを踏まえて、本当は第二次世界大戦を避けるべきだったんでしょけれども、残念ながら、新渡戸先生が亡くなっていたもんですから、そういう関係があつて、今一度、第二次世界大戦のことをもう一度検証しまして、絶対戦争が起きないよう新渡戸先生とか様々な先人の努力でこうなっている国、そしてそういうつらいところを過ごしてきた、このことが我々に課された義務なのかなと思ひまして、改めて、この花巻新渡戸記念館、花巻の先人記念館という形だったと思ひますけども、この発展を願っているところでございます。よろしくお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

それでは議事に入らせていただきます。議長は、規則第8条第2項の規定によりまして、会長に願ひすることになっておりますので、木村会長よろしくお願いいたします。

(議長(木村会長))

それでは、議長をさせていただきます。議事の(1)、令和3年度の報告につきまして説明をお願いいたします。

(中島上席主査 (学芸員))

それでは、御手元の資料1ページ目をご覧ください。実施事業の報告です。

1の展示事業、(1)特別展「新渡戸稲造の言葉」を令和3年6月1日から11月30日まで行いました。2,731人の来館でした。内容は、新渡戸稲造の言葉の色紙を36枚紹介し、併せて、額「本立未治」の本物を展示しました。当初の会期は10月10日まででしたが、8月14日から9月24日まで42日間、臨時休館となりましたので、11月30日まで延長し開催しました。そのため、次の特別展は中止しました。

(2)、共同企画展「新渡戸傳没後150年」を、令和3年12月11日から令和4年1月23日まで行いました。409人の来館でした。共同企画展は、平成22年度から生涯学習部が中心となって行っている事業で、当館では新渡戸稲造の祖父、傳を取上げて、傳の一生をイラストパネルで紹介しました。

(3)、花巻の春桃の節句、これは、恒例の行事、雛人形展です。令和4年2月11日から旧暦の3月3日にあたる4月3日まで行いました。1,019人の入館でした。

2の教育普及事業です。

(1)移動研修を令和3年12月7日に実施しました。17人の参加のもと、奥州市の後藤新平記念館、斎藤實記念館を訪ねました。当初は9月17日に予定していましたが、コロナの影響で臨時休館となったため、12月に実施したものです。

次のページです。

(2)開館30周年記念行事新渡戸フェスティバル、令和3年10月16日に開催、104名の参加です。開館記念行事として当日は無料開放、津田塾大学学長高橋裕子氏による講演会を開催しました。当初は講師をお招きしての講演予定でしたが、コロナ禍を考慮し、事前録画と人数制限による講演会としました。郷土芸能と茶会はコロナ禍の影響のため中止しました。

(3)研修、講演会等は、記載のとおりです。

(4)その他として、戦後76年非核平和展を、令和3年8月6日から9日まで、当館を会場として、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター展が開催されました。

(姉帯副館長)

続きまして、入館者の状況について説明いたします。

資料の2ページの中ほど、(1)の入館者数の推移の表に記載のとおり、令和3年度の入館者数は5,054人でした。これは、(2)の入館者数の内訳の表に記載のとおり前年度比94.4%でした。月別の入館数は、令和3年度は8月14日から9月24日まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館となり、8月と9月は大きく減少しました。しかし、11月から1月は前年度より増加となり、特に11月と12月は令和元年度よりも多い月になりました。

(2)の内訳の表では免除者の人数が多くなっていますが、特に修学旅行等で市内に宿泊する場合の免除で280人、新渡戸フェスティバルの再開による104人といったところが要因と考えられます。

資料の3ページ、(3)の観光クーポン券による入館者については、花巻観光協会のやまねこ号が70人、日本旅行が17人でした。これも新型コロナの影響による全国的な観光客の落ち込みの表れだと考えられます。

(4)のキャッシュレス決済による入館は利用実績がありませんでした。参考まで、鉛温泉スキー場や童話村など、比較的、若年層の来場が多い施設では利用率が高いとのことでした。

(5) のアンケートと館内ホールにおいてあります自由記載のノートについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前年に引き続き、設置しませんでした。

次に決算関係について報告いたします。3 ページの下段、歳入につきましては、①から③までは、毎年、収入のある項目となっており、合計で751,455円でした。

①の行政財産使用料は自動販売機の設置に係るもので、毎年、ほぼ同額です。②の入館料は先ほどの入館者数の説明とも関連しますが、入館者数の減、免除者の増により、前年度から約25万円の減となっています。③の書籍販売は前年より5千円の増となっています。「新渡戸の言葉カレンダー」が売上の約9割を占めています。④の市債は令和3年度のみ収入であり、整備事業「高圧受変電設備更新空調機器等の更新」の財源に充てたものです。

4 ページ、歳出について説明します。①の一般行政経費は記念館の運営管理の経費であり、一般管理費、人件費、維持保全経費の区分になっています。一般管理費は、設備管理や受付、除雪の委託費、施設の光熱水費、通信費、消耗品費などの経費であり、人件費とともに、毎年、ほぼ同じ金額となっています。維持保全経費は、施設の軽微な修理や計画的に実施している大き目の修繕の経費であり、その年の行う内容によるもので、2の計画修繕に記載している項目を実施しています。②の企画展示事業費は先ほど説明した企画展示の委託費や、新渡戸フェスティバルなどの教育普及事業の経費で、毎年、ほぼ同じ金額となっています。③の整備事業費は、大規模な設備更新の経費であり、令和3年度の「高圧受変電設備更新」の完了により、現時点で必要な設備更新は一区切りになったところです。

整備事業以外の経費で、毎年、経常的に必要な経費をまとめると、令和3年度は、約75万円の収入に対して、約4,140万円の支出があったこととなります。

以上、令和3年度の事業報告を終わります。

(議長)

ありがとうございます。第1の実施事業、第2の入館者の状況、第3の決算と、コロナ禍の中で、いろんな行事ができなかったことなどの報告がありました。

説明が、終わりましたので皆さんの御意見、御質問をお伺いいたします。

どなたかございませんでしょうか。

(葛岡委員)

初めてなものですから、わからないことがありますして、決算のところ、(1)の歳入で、④の市債が令和3年度のみという御説明がありました。歳入と歳出をカウントしますと、歳出がいっぱい歳入はなくて大変だなという感じを抱いたんですけど、この辺のやりくりはどういうふうな仕組みでなされるかお伺いしたいと思います。

(議長)

事務局のほうから説明をお願いいたします。

(姉帯副館長)

歳入と歳出を比べると、歳出のほうが多くなりますけども、差額の部分は、市の一般財源から支出しております。こういったやり方は、ほかの施設も同様になっております。

(佐々木課長)

花巻市にはいろいろな記念館があります。実際に例えば博物館などもそうなんですけれども、入館料とか、物販の収入とか、そういったものだけで、この運営にかかる全ての経費を実態として賄えてはいないのかなと思っております。やはりこういった記念館施設は、社会教育の振興の意味合いとかそういった部分もありますので、市の方として必要な施設ということで、いろいろな経費を使いながら運営しているのが実態です。

(葛岡委員)

よくわかりました。私は別の組織の監査もやっているものですから、一般的には歳入と歳出の数字はイコールになるのではないのかなという気がしてこの表を見させていただきました。そういう意味ではこの決算は、今のお話ですと、市からの運営費といいますか、そういったものが占めているということであれば、そういう項目について記載する必要はないのかなという素朴な疑問であります。

(佐々木課長)

全くそのとおりかと思えます。これにつきましてはあくまで、この新渡戸記念館の事業費についても、実際には歳入歳出、分厚い花巻市の予算書や決算書というのがございます。その中で、例えば先ほど申し上げました整備費っていうことであれば、市債を使っています。今回240万円の整備事業費に関して市債というのを使って220万円、今回充てますとかっていうことを総合的に市の財政としてやっています。予算書、決算書の中では収支は実は合っているっていう状況ですが、あくまでもこの新渡戸記念館の部分だけを切り取ってしまうと、こういう表記にしかならざるを得ないということになります。

(議長)

葛岡委員よろしいですか。

(葛岡委員)

ありがとうございます。普通は表になって差額があれば繰越金とかって出てくるので、こういう書き方を珍しく感じたところでした。

(議長)

はいありがとうございます。ほかに、どなたかありますか。

(「なし」の声あり)

よろしいですか。それでは議事の(1)については終了いたします。

それでは議事の2番目としまして、令和4年度の事業計画につきまして事務局から説明をお願いいたします。

(中島上席主査)

それでは、5ページを御覧ください。

令和4年度事業計画について、1、基本方針ですが、記載のとおり新渡戸氏の顕彰と新渡戸家に関わ

りのあった先人たちの業績を紹介します。

2の展示事業です。令和4年6月11日から9月25日まで、「新渡戸稲造の著書I」として、新渡戸稲造の著書8冊を紹介しました。これは既に実施した企画展になります。

来月は、特別展2として、「八重樫豊澤、新渡戸傳の書画の師匠」として展示します。新渡戸傳の書画の師匠であった八重樫豊澤の作品を紹介します。

12月10日から1月22日まで共同企画展として新渡戸稲造の父十次郎を紹介します。

令和5年2月11日から4月3日まで、恒例の雛人形展を開催します。

3の教育普及事業です。令和4年9月、移動研修です。市の広報により、参加者を公募し、新渡戸氏ゆかりの地を訪ねるものです。訪問先は盛岡市先人記念館です。これは9月2日、18名の参加のもと実施しました。

開館記念行事新渡戸フェスティバルは10月15日に実施いたしました。当日は無料開放とし、午前中は安野稲荷神楽と子供たちの和太鼓の公演を行いました。午後は、講演会を行いました。

出前講座は、資料のとおりです。

次のページ、6ページを御覧ください。その他の事業としては、友の会会員募集の推進です。現在の会員数は31名です。

(姉帯副館長)

6ページの令和4年度の入館利用者数の目標について説明します。入館利用者数の目標値は11,000人です。新型コロナの影響は続いておりますが、令和元年度の実績を目指そうという目標にしております。令和4年度の9月末時点では3,737人と、令和元年度の同時期7,620人には及びませんが、前年同時期の1,782人の約2倍という状況になっています。仮に前年の10月以降の入館3,272人があるとすると、7千人を超えることが予想されます。

令和4年度の予算について説明いたします。先ほどの決算で説明したとおり、(1)歳入、(2)歳出の①一般行政経費は、例年と同規模の予算で事務事業を実施しているところです。先ほど御意見ございましたとおり、資料の書き方は次回から市からの一般財源と入館料の特定財源がわかりやすい資料にしていきたいと思っております。

昨年のような休館を要する事象もなく、概ね予定どおりに実施し、予算も執行しております。(2)歳出の②の計画修繕の項目については、今月半ばまでにすべて完了しました。

以上、令和4年度の事業について説明を終わります。

(議長)

議事の(2)、令和4年度の事業計画について説明を受けました。それでは皆様から、御意見、御質問をお伺いいたします。

(葛岡委員)

その他の事業で、友の会会員募集の推進とあるんですが、これは友の会の会員になって、どのような活動を行う事業の中身なんですか。

(中島上席主査)

当館で実施する企画展等の案内のほか、盛岡の新渡戸基金発行の会報が年4回出ておりますのでその送付など、当館の情報、新渡戸に係る情報を送るものです。運営協議会の委員の皆さまにも入会していただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(議長)

私の方から11月1日からの「八重樫豊澤 新渡戸の書画の師匠」の展示に関連して、花城町内、体育館の隣の松川章さんという方の武家住宅の玄関から入ってすぐの左側の板に八重樫豊澤の絵があり、昨日も行ってきましたけど、非常に素晴らしいものでして、これも紹介させていただけるのであればと思いましたが、今、突然に言ってもそれはもう難しいですね。実は改修して住みながら公開しようという話が進んでまして、どこからどこまでを開放するかということでいろいろな諸室を見てまいりました。そうしましたらびっくりしたのは、台所東側の方に6畳と台所を仕切るところの板戸がありまして、その裏に七福神が書いてあって、4枚の板戸に全部書いたんです。それで、基本的には現在ある壁を壊すとかはしなくて、どのように見せていくかということで、建築の設計で使用する仕様書のような建てられた当時の資料が出てきて、全部今の形と合うんです。最初はだいぶ改造されたのかなと思ってたんですが、そうではないんですね。それが出てきて、どこまで手を入れたらいいのかなということで思っているんですが、たくさんの絵とかが現場にありましたので、ちょっとお話をさせていただきました。ほかにございますでしょうか。

(福盛田委員)

展示事業の企画展について、いろんな企画展をやることによって書籍も同時に売れてると思うんですが、その関係もわかりますか。企画展に来てみて何か本を読みたいなということで購入を求める方が多くなったり、書籍収入も資料に載ってましたので、特にそういうことではないですか。

(中島上席主査)

現在は企画展の図録というものは作っておりません。それでパンフレットとして薄い冊子を来館者に無償でお配りする形で対応しています。

(議長)

他になにかございますでしょうか。

(「なし」の声あり。)

それでは、会議を進めさせていただきます。

次に、(3)の令和5年度の事業計画について、事務局から御説明をいただきます。よろしくお願いいたします。

(中島上席主査)

7ページをご覧ください。令和5年度事業計画について、1の展示事業、令和5年6月10日から9月24日まで、「新渡戸稲造の著書展Ⅱ」というタイトルで、今年はⅠを開催しましたので、来年はⅡを開催しようとするものです。

11月1日から11月23日まで、書画展として当館に所蔵されている軸や屏風がございますのでそ

れを展示したいと思っております。

1 2月、共同企画展は稲造の叔父である太田時敏を紹介します。

令和6年2月11日から4月3日、これも雛人形展という恒例の行事です。

2の教育普及事業です。これも例年どおり9月に移動研修、行き先はまだ未定です。10月に、新渡戸フェスティバルを開催予定です。

その他として、先ほど説明した友の会の募集の推進をしていきたいと思っております。

(姉帯副館長)

令和5年度の事業計画については、今日、委員の皆様からのご意見を伺い、できる範囲で新年度の計画に反映していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

施設管理については、記載のとおりですが、現在、来年度の予算編成事務を行っているところです。計画修繕については優先度や緊急度を適切に把握して進めていきたいと考えています。

以上、令和5年度の事業について説明をおわります。

(議長)

説明が終わりましたけれども、皆様の御意見、御質問を承りますが、どなたかございますか。

(多田委員)

たくさんの方の行事を精力的にやっておられるということで、すばらしい業績が積み重なっているなと思いました。来年度の教育普及事業の移動研修の件で、私は県の博物館の友の会やっておりますが、そこで友の会の研修視察というのが、コロナの前は行われておりました、参加しやすい状態でした。

新渡戸記念館では年に1回、一般向けの研修視察を計画されておりました、私も一度お世話になったことがございます。でも、定員が少ないもんですから、例えば今日の9時から受け付けますっていうのがあったりしたときに、ちょっとでも時間がずれると満杯になりましたっていうことがあってなかなか参加できなかったです。来年度からということでもないんですけども、友の会会員向けの視察と一般向けの視察というふうな形で、なかなか行くところも限られてくると思うんですが、そういう方向も考えてみれば、友の会の会員になっている意義が、もう少し具体的なメリットとして受け取られるのではないかなと思いました。遠い将来の話になるかもしれませんが、友の会会員としてはそんな配慮があれば、もっと身近にこの館を感じることができるのではないかなあとそんなふうに思っているところです。

(中島上席主査)

当館の募集の仕方は抽選という形をとっていますので、一度、応募できるようにしています。この頃は応募者全員で行く形になっています。参加の応募をよろしくお願いいたします。

(議長)

はい、ありがとうございます。

他にございますか。

(葛岡委員)

私、何年か前に観光ガイドやっております、この記念館はもとより、賢治記念館とか、高村光太郎記念館といったところを広く浅く案内した経緯があります。そのときに観光ガイドは福盛田さんも経験がおありだと思いますけども、佐藤孝さんという方がいらっしやいまして、新渡戸ロードについて強調されておりました。

私も全く共感を持って拝聴してましたが、この花巻ゆかりの新渡戸家あるいは新渡戸稲造に関わるところの遺跡を案内するというものも、この移動研修ということの中で、広く市民の方に知っていただくという点では効果的なのかなと。私もガイドをやって初めてその新渡戸ロードなるものを聞いて、改めてその新渡戸ロードにある標柱を読んでみました。もっともっと市民の方に知ってもらうことは、この記念館の存在感をもっとより高めていく意味でも大事なことではないのかなと思ってます。

なお、御参考までに岩手台湾懇話会を通じて新渡戸基金とコミットがありまして、今、一生懸命、新渡戸稲造の農業本論を勉強し、新渡戸稲造の世界という本がありますけども、葛岡さん書いてくれるかって言われたから、今、お粗末ではありますが原稿を執筆中です。

(嶽間澤館長)

移動研修でございますけども、新渡戸さんに関わる場所ってということで水沢とか、それから十和田とか、盛岡とか。もちろん花巻を御案内するときもございました。

雄山寺さんとか、あるいは花巻城址とかですね、それから武家屋敷跡、十次郎が生まれたであろうという鳥谷崎神社の端のほうの土地とか、それから新渡戸家が青森から帰ってきたときに、一日市町坂の下とか、もちろん市外だけじゃなくて市内のほうの学習会も、何年かに一度組んでおりますので、そういった、今、御指摘ありましたように花巻の新渡戸に関わる場所ってというのは、もう一度こう掘り下げて取り組んでいきたいと思ってます。貴重な意見ありがとうございます。

(議長)

ほかにございますか。

(福盛田委員)

今、新渡戸ロードの話があつてちょっと懐かしく思いますが、佐藤孝さんと一緒にあそこを開設して、観光協会じゃなくて観光課の方で標柱を立てたりいろんなことをやって、今もまだ残っておりますけども、なかなか観光客がすごくリクエストして周ってほしいという問合せがなかったのも、作った方がいいが利用されないというような現状だったんです。

今どうか分かりませんが、私がやった頃はそうだったので、あれだけ立派に作ったので、もし活用できるのであれば、そういうロードに見直する方法もあるかなと思っておりました。

(議長)

はい、ありがとうございます。

(佐々木課長)

新渡戸ロードですが、知ってる人は知っているといえますか、うちに勤めている職員が学生の頃に新

渡戸ロードを全部回ったっていう方もいらっしゃいましたので、そんなに著名ではないですけども、そういう歴史を好きな人とかそういう人たちには知られていて、歩いて周ったって言ってますけど、頑張ったなと思うんですけども、そういうこともやられてるなっていうことを参考までに御紹介をさせていただきたいと思いますので、決して忘れ去られておりません。今、30歳ぐらいの職員なんですけども、学生の頃に、そこを歩いたと言ってました。

(議長)

先輩の皆さんの足跡がそのままもう埋もれてしまうの残念で、佐藤孝先生も随分一生懸命でしたので、ぜひ、今後も取り入れていただきたいと思います。

ほかにございますか。

(「なし」の声あり。)

よろしいですか。それでは、議事の(3)について終了いたします。

以上で、議事を終了いたします。皆さんの御協力で円滑に進めることができました。ありがとうございました。

(司会)

木村会長大変ありがとうございました。最後にその他という項目になりますけども、皆様から何かございましたらば、御発言をお願いいたします。

最初に館長からお話させていただきます。

(嶽間澤館長)

新渡戸稲造の書籍といえば「武士道」が有名でございますが、調べましたら40冊を超えるぐらいの書籍を発行しています。

葛岡委員からのお話の中にもありましたけど、「農業本論」とか、そういったものも、どんな本かっていうことを簡単に紹介しております。今、私が取り組んでおりますのは「武士道」以外の新渡戸の書籍、どんなことを書いてるかということ調べて、ぜひ紹介したいと思っています。大きく分けると、新渡戸さんの書籍は四つに分類されるのかなと思います。

農業関係の専門家でございますので、農業に関する書籍が第1としてございます。日本で札幌の農学校で学んだこととか、あるいはアメリカ、ドイツへ留学してきて、「農業本論」とかとかそういったものが一つであります。

それから、外国のことを留学経験長いですし、あるいは外国での仕事やっておりますので、外国の事情を日本に知らせるっていう第2としての書籍がございます。

それから、第3には、「武士道」はじめ日本のことを諸外国に知らせる、もちろん英語で書かれ、ドイツ語で書かれた書籍もあります。「武士道」も英語で書かれてますけど、そういったことで第3に分類されるのがこういった、日本のこと、日本国民のことを知らせる書籍。アメリカで出版されたものもありますし、イギリスで出版されたものもあります。それでイギリス国民とかアメリカ国民に、日本の諸事情、日本のことを知らせるために英語で書かれた本が第3に分類されるんじゃないかと思います。

それから第4には、日本の青年たちに対して、働く青少年に対して修養的な本です。人生いかに生く

べきかと、こういったものに分類される本がございます。これは、「武士道」などは、非常にレベルの高い人たち、外交官とか政治家とか学者とか、こういった人たちを対象に書かれていますので、それなりの英語のレベルだと言われております。4に分類されるのは、あの当時の、明治、大正、昭和の初期にかけての若者たちに対して、外国のことを知らせたり、それから、人生いかに生きべきかってという修養本を書いたものです。

こう四つに分類されますが、3年に分けて紹介するのは年代別です。留学時代アメリカの大学で出した本が29歳のときです。これは日本の歴史を網羅して紹介してる本で、大体、明治の時代に出版された本を今年8冊紹介しました。

来年は大正時代に書かれた本8冊ほど、それから、昭和8年に亡くなりましたけれども、国際連合の事務次長をやめた後は日本に帰ってきてからの昭和の初期の時代に書かれた本を最終年度に9冊ほど紹介したいなと思っております。

なかなかの人物ですね。こうやって調べると大変魅力的な人物でございます、特にも学校関係、先ほど話でいろいろできましたがやっぱり、子供たちに教える学校の先生がわからないことには、あるいは、学校で取上げてもらえないことには効果が薄いんじゃないかなと思います。また、今年も、学校を中心に働きかけを行っていきたいと思っております。

(司会)

そのほか何か皆様からございますか。

(「なし」の声あり。)

それでは、以上をもちまして、協議会を終了いたします。本日は大変ありがとうございました。